

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1122 2013年9月号

「林業専用道技術者研修」及び 「准フォレスター研修」開催

林業専用道技術者研修は、愛媛県西条市で7月23日～25日の日程で、准フォレスター研修については、高知県高知市で8月5日～9日の日程で開催されました。【詳細は2頁】



四国森林管理局 井上業務管理官(次長)激励の挨拶



准フォレスター研修の講義の様子



林業専用道技術者研修現地検討会



林野庁では、森林・林業再生の取り組みを実現していくため、森林・林業に関する専門的な知見を有する技術者を計画的に育成することとしています。四国森林管理局では、森林技術・支援センターを研修拠点として位置づけ、管内国有林のフィールドを活用しながら「林業専用道技術者研修」、「准フォレストスター研修」を実施しています。

講師には、林野庁及び四国森林管理局の担当者をはじめ、大学教授や研究者

【林業専用道技術者研修】

林業専用道技術者研修

は、第一回目が七月二三日～二五日の日程で発注者側の職員を対象に、第二回目が八月二〇日～二二日まで

【林業専用道技術者研修】



は二二名、第二回目は一六名が受講しました。

林業専用道とは、森林・林業の再生に向けた今後の路網区分のひとつとして、林道を補完し森林作業道と組み合わせ、間伐作業をはじめとする森林施業に用

のをいいます。その作設にあたっては、地形・地質の面から十分な検討を行い、規格・構造の簡素化を基本にできるだけ地形に沿って作設することとしており、当研修はその設計・監督等を行う人材の育成を目的としています。

研修内容は、林野庁担当官による「林業専用道作設

指針の概要」等の講義や、班に分かれて机上で路線検討を行ったうえで、翌日、国有林の既設道に赴き、現地検討を行って共通認識の醸成を図るとともに、カーブ設計の留意点等について実技研修を行いました。最終日には、前日検討した内容をグループ毎に発表、意見交換し、担当講師等によ

る総括が行われました。

研修をふりかえって、色々な立場からの参加があったことから参加者同士でお互い異なる立場における考え方が理解できて有意義であった、急峻な地形が多い四国では林業専用道の設計は難しい等の意見が寄せられました。



【林業専用道技術者研修】

現地検討会

今回の研修は、本年度最後の研修として九月二五日～二七日の日程で行われます。

この研修を受講された皆様の今後のご活躍を期待しています。

【准フォレスター研修】

准フォレスター研修については、八月五日から高知市のオリエントホテル高知において始まり、第一回の研修Ⅰは四国四県から県職員一六名が受講しました。

准フォレスターは平成二三年度から始まっている新たな森林計画制度の下で、市町村が策定する市町村森林整備計画や森林所有者等が策定する森

林経営計画について、その認定・実行監理等を支援する県や国有林の職員です。

林野庁では、これらの准フォレスターを育成するため平成二三年度から全国を七ブロックに分け研修

を行っており、四国森林管

理局においても、三年目となる今年度も研修（全一〇日間を二週に分割）を二回実施することとします。

開講式の後、当局の井上業務管理官による「森

林・林業再生に向けた取組」と「フォレスターの心構え」の講義で始まりました。当研修は、プレ

業と事業者の育成、流通改革の取組、地域の森林・林業の構想、森づくりの構想、木材の流通・販売、林

業労働安全、間伐実行監理

演習、森林資源循環利用

構想策定演習、市町村森林整備計画演習などフォレスターに求められる役割を理解するためのカリキュラ



間伐実行監理演習グループ
検討【准フォレスター研修】

ム構成となっています。森づくりの構想及び間伐実行監理演習では、昨年

に引き続き四万十森林管

理署管内の新道山等国有

林を演習フィールドとして、人工林施業における目標林型や当面の施業方法の検討や森林作業道整備の検討等について現地

演習を行いました。今回の一六名の研修生は一〇月二一日からの研修Ⅱを受講した後、通信研修及び集合研修を受講すること

となっています。准フォレスターとして市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行いながら地域の森づくりの全体像を描くとともに、市町村が行う行政事務の実行支援を通

じて、地域の森林づくりと、森林・林業の再生を担う人材となることが期待されています。

また、平成二五年度から認定の「森林総合監理士（フォレスター）」の候補として期待される人材

です。



森づくり構想実習
【准フォレスター研修】

樹木教室

『学校の樹木へ名札を付けよう』

〈技術普及課〉



七月二十八日、「学校の樹木へ名札を付けよう！」（横濱新町まちづくり市民会議主催）と題して高知市立横濱新町小学校において、小学生親子など三五名の参加により実施しました。

このイベントの趣旨は、「学校にある樹木の名前を知ってもらい、自分たちの暮らしと深い関わりのある樹木の役割を家族や地域の方々と楽しく学ぼう。」というもので、まず、校長先生から、「身近にある樹木には多くの働きがありま

す。私たちができることは、樹木を育て、大切に使うことです。まずは身近な木の名前を覚えてみましょう。」と挨拶の後、技術普及課職員から広葉樹と針葉樹の違いや葉の形状の違いなどを事前に説明した後、二班に分かれて校内にある二〇種の樹木の特徴や名前の由来などを学習しました。参加者は暑い中、真剣に話を聞き、葉を採ってじっくり観察したり、種子を探したりしながらメモをとっていました。

次に、参加者が気に入った木と自分の名前をヒノキを輪切りにしたプレートに書き、きれいに縁取りをしたり、好きなイラストを描くなどして、個性豊かに仕上げ、自らの手で名札を取り付けていきました。選ばれた木は「僕の木・私の木」となり、輝いて立っているように見えました。



樹木名札作製中

子ども達の中には、モミジの種子がクルクル回りながら落ちることや、ヨモギが止血や、水中メガネの曇り止めになる事など、遊びの中からたくさんの知識を身につけているな、と感心させられる子や、名札に「花を大切に」と書いている子もいて、思いやりを感じるのと同時に今回の趣旨が理解されたのではないかと思われました。

今回、名札を付けた木が、参加者にとって、夏休みの思い出になると共に二〇年・三〇年後も大切な木であるようお願いつつ、イベントを終了しました。当日、薄曇りではありませんでしたが、大変暑い中参加してくれた子ども達か

らは、「二学期になったら友達に教えて自慢する。」「葉っぱの違いが学べて、すぐく勉強になった。」「地域の方と一緒に楽しかった。」と汗を光らせながら笑顔で意見をよせてくれました。



樹木学習

『親子ふれあい木工教室』開催

コロコロゲーム作製と積木教室

〈技術普及課〉



八月二三日、公募による

親子一七組、四二名が参加した「夏休み親子ふれあい木工教室」を、当局の大会議室において実施しました。

この木工教室は、夏休みの

研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めることを目的として、オイスカ高知県推進協議会との共催で、例年、夏休み期間中に小学生とその保護者を対象に開催しています。

まず、当局が森林の役割や森林からの恩恵について、参加者に質問しながら

森林教室を行いました。

続いて、森林整備等で発生した広葉樹の小枝などを使って『コロコロゲーム』（トラック）製作に取りかかりました。



コロコロゲーム製作中

細かなパーツが幾つもあり、子ども達はその色塗りに悪戦苦闘していました

が、みんなの個性は炸裂、見るだけでも楽しくなるようなオリジナルの作品が所定の時間内に見事に完成し、どれもすばらしい大作となりました。

当局の木工教室の後は、オイスカスタッフと海外研修生が先生になり、積木教室を行いました。

子ども達は、スタッフのお話を聞いた後、広い真っ赤な絨毯の上に横たわり、スタッフや保護者からバラバラと積木の布団を掛けられ、歓声を上げて喜び、木の温もりを感じた後、保護者も交えて積木遊びに夢中に取り組みました。

上へ上へ高く積み上げる子、几帳面に隙間なく頑丈

な橋を作る子、虫や動物を形にする子、様々な積木の造形が完成しました。

最後に、みんなが組み上げた積木がなぜ、どうして作られたかなど、オイスカスタッフが順を追って丁寧に紙芝居で説明すると、子ども達は森林整備のために木を伐ることの大切さを知り楽しい一日を過ごしました。

積み木遊び



夏休み木工見本展を開催

〈技術普及課〉



夏休み期間中の七月二二日から八月三一日まで森林ふれあい館において、O

点）や森林鉄道写真の展示と木工教室を開催しました。

Bである正岡氏にお願いし「森からのおくりもの」で作成した木工品（約二〇〇

木工品は、正岡氏がこれまで作成したものに加え今年になって作成したもの

などで、特に今年は糸電話を応用したジーゼミが人気で館内は子供達が目回す本物さながらのセミの音で賑やかでした。出品されていた力作揃いの作品に、訪れる人みんながその想像力、アイデア、企画力、出来映えに舌を巻いていました。

また、森林鉄道写真を見られたOBの方々は当時を懐かしんでいました。

一方、木工教室には、親子二二組、五九人と昨年の倍以上の親子が作品づくりに励みました。訪れた方々に聞くと、知人からの紹介が最も多く香南市香我美町からの親子や大阪から帰省したお孫さんを連れて来てくれる常

連客の方など、今年も大変な賑わいで、子供達は頑張つて作った自分の作品に満足気な様子でした。来年もこういった方々のロコミで益々来場者が増えることを願うものです。



親子に指導する正岡氏

介良潮見台小学校放課後児童クラブ外九カ所、高知市三里ふれあいセンター外四カ所から講師依頼があり、高知市内の小学生及び保護者約六五〇名を対象に七月二四日から八月二九日までの約一ヶ月間、森林環境教育として、森林教室と木工教室を実施しました。

森林教室では、森林への理解を深めてもらうため、森林の働き・大切さ・恵みをテーマにパネルや間伐材の輪切りなどを使用して説明しました。中には、こち



森林教室（児童クラブ）

らの質問にしっかりと答えてくれる子や、逆に質問をしてくる子など、子ども達の森林への関心の高さに驚かされました。

その後、森林からの「おくりもの」である、小枝（森林整備から発生した物）及び竹を使つての木工教室を実施しました。

放課後児童クラブは、先生と低学年の児童が主体で、保護者の方もいないことから、事前に各パーツに加工したものを使つて『コロコロゲーム』を作成しました。その他に、『森の妖精貯金箱』や『はし置き』等を作成しました。

また、高知市教育委員会が主催した各ふれあいセンターの「親子夏休み木工教室」では、のこぎりや、ナイフを使い小枝等を加工して「はし置き」や「動物車」「ジーゼミ」などを作製し、特にのこぎりや木や